

関係について研究を続けている。この結果の一部は第46回日本心理学会で「場依存・場独立者における半球機能差の検討」として報告された。

現在、東海学術奨励会の助成を受け、半球機能差の国際比較を計画している。

### II 利き手の発達に関する研究

大脳半球機能と密接に関係すると考えられている利き手についても研究を続けている。昨年手操作の発達の变化に焦点をあてた研究を愛知淑徳短大の山田洋子氏とともにに行ない、第45回日本心理学会において「乳児期におけるラテラルドミナンスの発達(2)」として報告した。利き手の発達の变化は大脳半球機能との関係から早急に明らかにされるべきであると考えている。現在、文部省

科学研究費の助成をうけ、手操作のコンピュータ解析を試みている。これについては本年度中に完了する予定である。

### III その他

①大脳半球機能と関係すると思われる学習障害についても研究を進めている。現在の所は、神谷育司氏(名城大学助教授)、斉藤久子氏(名古屋市立大学小児科)や臨床の諸先生と研究会を持ち、ケースレポートを含めた基礎的な研究を行っている。これに関しては近いうちに報告書が出される予定である。

②特定研究の一貫として、小嶋秀夫助教授、山田洋子、村上京子の各氏と子-子-母関係の研究を行っている。この結果の一部は教育心理学会第24回総会で報告される。

## 名古屋大学教育学部臨床心理相談室 昭和56年度活動報告

### I 昭和56年度の新規受件数

本年度の新規受件数は、前年度とほぼ同じく80ケースであった。その年令・性別の内容は表1に示した通りである。以前に比べると、就学前、小学生の年令段階の比率がより減少し、その分成人が増加しており、結果的には、幼児・児童期、思春期(中・高生)、成人が各3分の1ずつの割合になっているが、これは当相談室が社会に開かれた援助機関であるという性格から考えて、望ましい傾向にあるといえる。月別の受付状況

は表2に示されている。ここからそれほど確定的なことはいえないが、やはり4月、9月等の新学期に若干多いようであり、これは次に示す問題内容において、不登校が最も多数であることとも関連していよう。

その主訴の問題内容、および処遇状況については、表3、4に示した。ケースの年令の多様化に対応して、問題の内容もまた多様化してきている。不登校がトップを示しているのは昨年度と同様であるが、「神経症、境界例」「精神分裂病・うつ病」「反社会的行動、非行、怠学」等の問題が増加している。精神分裂病やうつ病の精神病

表1 56年度新規受件数

年令 性別	就 学 前		小 学 生 低学年 高学年		中学生	高校生	大学生	成 人	計
	0～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～		
男	2	3	8	3	7	7	2	18	50
女	4	3	1	1	5	4	1	11	30
計	6	6	9	4	12	11	3	29	80
(%)	(7.5)	(7.5)	(11.25)	(5.0)	(15.0)	(13.75)	(3.75)	(36.25)	(100.0)
	25 (31.25)				55 (68.75)				

表2 56年度月別受付状況

月	56年 3月以前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	57年 1月	2月	3月	計
件数	3	10	7	7	5	4	10	7	6	7	4	4	6	80

表3 56年度受付ケースの主訴の内容

不登校	17	( 21.25 )
神経症・境界例	16	( 20.0 )
精神発達遅滞・言葉の遅れ	11	( 13.75 )
精神分裂病・うつ病	8	( 10.0 )
反社会的行動・非行・怠学	7	( 8.75 )
夫婦関係の問題	5	( 6.25 )
自閉(傾向)児	3	( 3.75 )
緘黙	3	( 3.75 )
チック	2	( 2.5 )
その他	8	( 10.0 )
計	80	( 100.0 )

表4 56年度受付ケースの受理段階での処遇状況

母子並行治療	21	( 26.25 )
個人カウンセリング	16	( 20.0 )
親のみのカウンセリング	12	( 15.0 )
他機関紹介	12	( 15.0 )
ガイダンス	9	( 11.25 )
グループ療育	3	( 3.75 )
その他	7	( 8.75 )
計	80	( 100.0 )

表5 56年度受付ケースの56年度末時点での処遇状況

継続中	41	( 51.25 )
他機関紹介	12	( 15.0 )
ガイダンス	9	( 11.25 )
終 結	8	( 10.0 )
中 断	7	( 8.75 )
経過観察中	3	( 3.75 )
計	80	( 100.0 )

表6 55年度以前の継続ケース、その後の動向

年度 処遇	50年度末に継続中のケース(15)						51年度末に継続中のケース(27)						52年度末継続ケース(42)				53年度末(23)			54年度末(34)		55年度末(39)
	51	52	53	54	55	56	52	53	54	55	56	53	54	55	56	54	55	56	55	56	56	
継続中	6	3	3	2	2	2	12	9	6	5	5	27	12	5	3	9	6	3	16	12	20	
経過観察		1							1				1	1				1		1	2	
終 結	7	2	1				9	3	2	1		13	12	5	1	11	3	2	13	2	6	
中 断	1						5					2	2	2		3			5	1	9	
他機関紹介	1						1														2	
「継続中」と「経過観察中」の計	2						5						4				4			13	22	

(総計50)

については、精神科等他機関に紹介されることが多いが、精神病だからといって、常にただちに他機関にまわされるわけではない。すでに精神科を受診し、投薬をうけているケースが心理療法を求めてやってくる場合もあり、相当重いケースであっても、精神科受診と並行して、あるいは単独でその心理療法が試みられている。この点は当相談室の最近のひとつの特徴でもある。

## II 継続ケースについて

次に継続中のケースについて眺めてみよう。56年度受付ケースの56年度末時点での処遇状況は、表5に示した通りである。41ケース、約半数が継続中である。

また、前年度以前の継続ケースのその後の転帰については表6に示しておいた。

前年度以前から継続しているケースは計50例であり、56年継続中、および経過観察中の44例とあわせると94例になる。これらのケースが毎週か隔週、あるいはそれに準じた頻度で当相談室を訪れている。さらに、それらの約3分の1は母子並行であり、また本年度には継続および経過観察中以外の新規受付ケース36例が来談しているので、その延べ回数はかなりなものとなる。前年度の報告でもふれられているように、当相談室の部屋使用が過密となる由縁がここにある。このケース数が当相談室の物理的条件、および約30名のスタッフによる活動の限界となるものであろう。

## III リサーチ・カンファレンスについて

本年度のリサーチ・カンファレンスは次の表7に示したように行われた。

この表にみるように、さまざまな立場や角度からさまざまな主題についての話題提起がなされ、熱心な討議がかわされた。ただし残念ながら、回数は二ケタを割ってしまった。今後は内容の一層の充実とともに、より多くのリサーチ・カンファレンスの機会を積極的に設けていきたいと考えている。

表7 56年度リサーチ・カンファレンス主題一覧

	年月日	主 題	話 題 提 供 者
1	昭和56年 5月8日	カリフォルニア州におけるカウンセリング の訓練プログラムについて — パーソナル な経験と現在の実践	サンタバーバラ大 フロイド, G. L.
2	5月29日	心理療法とイメージ	愛 教 大 西 村 洲衛男
3	6月24日	登校拒否中学生とともに	文 珠 紀久野
4	7月24日	絵画療法から — 払暁表現の出現とその意義	城山病院 中 村 勝 治
5	10月2日	国際精神衛生連盟マニラ会議に出席して	田 畑 治
6	10月23日	登校をしぶり、学校では行動が止まってし まうA子の治療過程	くすのき学園 吉 田 耕 治
7	11月20日	聴力・音声・言語部門における鑑別診断と 訓練をめぐる	愛知県総合 保健センター 幸 田 政 次
8	12月18日	“チックの又三郎” — 母親の面接過程をめぐる	長 尾 洋 之
9	昭和57年 2月26日	非行状況での人間関係について	名古屋少年鑑別所 八 木 貞 好

本年度の教室のモットーは「切磋琢磨」であったが、当相談室においてもこれと対応していくつかの目標がかかげられた。たとえば「スーパーヴィジョンの強化とシステム化」「心理療法の腕をみがき、実力をつけること」「新入スタッフの訓練プログラムの再検討、臨床棟入門講義の開講」「事例研究をまとめ、雑誌、学会等に発表すること」等々である。これらの目標にむかっての努力はかなりの実をあげ、活動は非常に充実したものになってきているといつてよい。

しかしながら、さらなる今後の展開のための課題もまた忘れられてはならない。「当相談室スタッフとO. B., 他大学相談室との交流、合同研究会の促進」「スーパーヴァイザーの一層の強化」「心理臨床家の資格問題の核としての相談室のあり方の検討」等々の課題がある。日常の実践活動とともにこれらの方向についても、なお努力を重ねていかななくてはならない。

(池田博和・田畑 治・村上英治)